

## 第1回軽米町総合戦略策定委員会議事録

○開催日時：平成27年6月12日（金）午後1時30分～4時

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者

委員：岩手大学名誉教授 齋藤徳美、岩手県立大学特任准教授 千葉実、軽米町社会福祉協議会会長 菅原皓文、二戸地方森林組合参事 小林康夫、軽米建友会会長 上柿則昭、二戸地域振興センター所長 佐々木亨、岩手県立軽米高等学校校長 熊谷拓也、株式会社岩手銀行軽米支店支店長 田澤義明、株式会社みちのく銀行軽米支店支店長 藤原博幸（代理 安田氏）、株式会社エフエム岩手営業部販促企画室長 舘澤徳寿、軽米町認定農業振興会会長 田中祐典、軽米町PTA連合会会長 大崎純也、軽米町子ども子育て会議委員 苅谷百合子、軽米町体育協会副会長 田頭一男、軽米町文化協会会長 堀米成嘉、一般公募 堀米孝太郎、竹澤勳

事務局：総務課 日山、吉岡、畑中

委託業者：非営利活動法人仕事人倶楽部 山田、森田、水野

### ○開会

（事務局）ご出席いただき感謝申し上げます。本日は20名の委員のうち17名の出席があり、規約により会議が成立したことをご報告する。

### ○軽米町長あいさつ

（町長）本日は第1回目の軽米町総合戦略策定委員会を開催しましたところ、大変お忙しいなかご出席をいただき、ありがとうございます。国では人口減少、東京一極集中を是正するために、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定いたしました。軽米町も人口が減りつつある中で、この戦略をしっかりと立て、対応したいと考えている。人口減少は全国的な傾向であるが、当町はピーク時に比べて4割超が減り、1万人の大台を割っていて大変な危機を感じている。これまで町では、子育て支援をしっかりとやってきたが、この間年間200人を超える減少だったのが、100人台に落ちてきている。成果は出てきていると思われるが、人口減少に歯止めが掛かったわけではない。今後は、子育て支援、再生可能エネルギー等、地域の活性化と雇用の拡大をはかりながら、人口減少に対応していきたいと考えている。今回、それぞれの立場で意見をいただきたい。役場が何をできるのかという議論も必要だが、町民一人ひとり、自分が何ができるのかという意見もいただきながら、行政と町民が一体となって課題を検討していかなければ、成果は得られない。ぜひご忌憚のない意見をいただきたい。

### ○委員長・副委員長選任

委員長に、齋藤徳美岩手大学名誉教授、副委員長に千葉実岩手県立大学特任准教授、菅原皓文軽米町社会福祉協議会会長を選出した。

### ○委員長あいさつ

（齋藤委員長）町長から「しかと」と念を押され、重責を感じている。3.11の復興もしっかりと進んでいない中で、人口減少の問題など、地域はかなり厳しい状況で、先はなかなか見え

ない。国は創生法で、地域も考えろと出してきている。東京の一極集中を是正すること、リスクの分散が大事と個人的には思っている。が、地方は電気や食料を作っているだけ。首都圏が成り立つためには、地方が活力を持たなければならない。国、県が一律に地方創生を出しているが、金太郎飴ではいけない。地方には活かせる資源が必ずあり、軽米町にも使えるものが必ずあるはず。各委員のみなさんには、それぞれ専門の視点から、どうしたらこの町がもっと良くなっていくか、ぜひ忌憚のないご意見を聞かせていただければと思う。どうかよろしくお願いいたします。

## ○各委員より自己紹介

(省略)

## ○協議事項

### (1) 国、県の人口ビジョンと総合戦略策定のイメージについて

資料1及び2について説明(事務局、省略)

(齋藤委員長) この資料では、どんな形で策定していくのかを説明していただいた。国は基本目標を4つ示しているが、本当は具体的に何をどうするのかというのを示して欲しいところ。県もそれに従って、20年までに社会減ゼロに持っていくという強い決意をもった方針を示している。これが全国統一というわけではなくて、地域独自のものを示していかなければならない。

(委員) 資料2について、岩手県の市町村の予測が示されているが、自然減と社会減の割合は推計しているのか？

(事務局) 推計はしており、データも公表されているはず。手元にあるかどうか、確認する。

(千葉副委員長) 県で推計しているはずなので、データを探して次回以降示したい。

(委員) 趣旨は、社会減をゼロにするという目標で、自然減をどのくらいにして、それによって目標人口がどのくらいなのかが知りたいと思った。

### (2) 軽米町人口ビジョン・総合戦略策定方針について

資料3について説明(事務局、省略)

(千葉副委員長) ビジョンと戦略は今説明があったような整理で良いかと思うが、戦略は具体的にだれがどうするかを決めていかなければならない。その上で具体的なターゲットをどのように考えているのか？もう少し詳しく言えば、人口減少対策ということなので、自然減と社会減のどちらを対象としていくかを教えてほしい。

(事務局) 先ほど申し上げたとおり、20歳代の若者の町外流出、出生率の減少、いろんな要素があるが、20歳前後の若者が流出して戻ってこないという点が町としては一番大きな問題だと考えている。先ほどの説明の補足になるが、考え方としては「雇用の確保」が一番必要。これまでは雇用の確保イコール製造業の誘致だったが、今は難しくなっている。今一度、基幹産業である農林業を見直したとき、特に畜産業は後継者の育成が進んでいる。そういったものを育てて、若者の雇用対策にできればと思う。特産品の六次産業化については、軽米

ブランドとして何年か進めてきている。創業の起爆剤として活用したいし、今進んでいる再生可能エネルギーについても、雇用に結びつくなら積極的に推進していきたい。また、町の中で何もかもを、仕事の確保までも完結させようというのは難しい。周辺にあるものは、それを活用するのも手ではないかと考えている。周辺で働いて、住む場所は軽米町、というやり方があっていい。それと、社会増に結びつけるには、他から軽米に移ってきてもらうもの。都市部での災害の危険性がいわれていて、田舎に移りたいという声もありながら、軽米での受入態勢が整っていない。空き家対策もこれからの課題。社会的な要素については、それらが考えられる。

(齋藤委員長) 従来の発想とは違った感覚で、社会減・自然減に対応する。仕事はここになくても、というのは従来なかった発想。それを検討するのも一つの前進。空き家が 290 戸もあるというのは驚いた。シングルマザーに空き家を使ってもらって、子育てをしてもらうというのも、これまではなかった発想。首都圏は介護が担いきれないので、地方にという虫のいい話も出ているが、東京に納めた税金を半分還元してもらって、というのであればいいかもしれない。他にもいろんなアイデアがあると思うので、皆さんから出てくることを期待したい。

(事務局) 空き家 290 戸というのは、これから精査しなければならない数字なので、その数字が一人歩きしないようにお願いしたい。

(齋藤委員長) 総合戦略の仕上がりイメージの中で、数値目標を立てることについて、わかりやすく良いが、すべて数値に表せるかどうかは疑問。数字に表しきれないものもたくさんあるだろう。全てが数字ではないことに留意したい。数字に関しては、県の総合計画に関わったときに、苦い思いをした。計画を作っても何一つ検証しない、ということがあり、「総合計画推進委員会」を設置して、すべて数字にしたことがあった。しかし、数字ばかりが並び、結局どうなっているのかよくわからなくて廃止した経緯がある。数字にのめり込みすぎない方が良い。また、個人的に考えてみると、若い女性がどのくらい町に残るか、または町に入ってくるか、そのような人たち自身、またはその夫が働く場があるかどうかポイントかと思う。

### (3) 軽米町人口ビジョンについて

資料4について説明(事務局、省略)

(齋藤委員長) 総合計画では、9,300 人というのを一つの将来人口の見通しとして示している。これについてどうか。

(千葉副委員長) 3点お聞きしたい。戦略の内容も大事ながら、具体的なターゲットが大事だと思う。行政が作る計画なので、全部の項目に目配りしなければならないが、特にターゲットをどう考えているか。始めは流出対策を書いているのかと思ったら、最後は出生率の話が中心になっている。両方やるなら両方を、どちらかならターゲットを明確にした方が良い。軽米町は取組が良いからと思うが、出生率が高い。それで人口減になるのは、子づくりをする夫婦や女性が少ないことが考えられる。2点目は、ビジョンの目標としている 9,300 人や出生率 2.07 について、根拠や達成できる確率についてどう考えているかを聞きたい。3点目として、増田プランから話が出て来ていると思うが、その注目点は3つ。1つは、高卒が流

出して戻ってこない 18 歳ギャップ、大卒で流出または戻ってこない 22 歳ギャップ、もう一つは子どもを産むとされている女性の流出、この 3 点について、どのような動きなのかを示していただけたら対策も考えやすい。

(齋藤委員長) ターゲットについて、数値目標を達成するためにどうのことをやっていくのか？が次回示されると思う。今の質問についてはどうか？

(事務局) ターゲットを絞るという点については、戦略を立てる上で大事なポイントと認識している。ただ、自然減、社会減の両方に対応していかなければならないと思っている。柱をどこにするのかは今後検討したい。現時点での考え方としては、人口流出、若い女性だけでなく、男子も女子も一番ターゲットだとは思う。ただ、具体的にどうしていくかは現時点ではお答えできない。9,300 人の根拠については、総合発展計画の p32 に定住人口として掲載している。ここで 9,300 人というのが出ているが、この根拠については、ここで表記されている以上のことはわからないのが現状。社人研の当時の推計の 0.9 がけで 9,300 という数字を出している。今申し上げられるのはその程度だ。2.07 の達成見込みについては、今できる、できないということは何も言えない。これを達成するためのお知恵をいただきたい。18 歳、22 歳、20~49 歳については県の統計を確認し、次回会議に提出したい。

(千葉副委員長) そのような具体的な視点を持って考えた方が良いのでは、という意見として述べさせていただいた。

(齋藤委員長) ほかに意見はないか。事務局では現時点ではこのように考えているということ。今後の検討で、当然変わってくるとは思われるが、今の時点ではこの案を提示するということで良いか。

(異議なし)

#### **(4) アンケート調査の実施について**

資料 5・6 について説明 (事務局、省略)

(齋藤委員長) この資料は今日初めて配布されたので、今すぐに意見は出にくいかも知れない。事務局の説明のとおり、後日お答えいただくのでも良い。軽米高校の先生、高校生へのアンケート調査は可能か？

(委員) 人数も多くないので、全学年で実施できると思う。

(齋藤委員長) アンケートは今回限りのものか？

(事務局) 今後も継続して行うことは考えておらず、今回だけとなる。全学年を対象に実施させていただきたい。

(齋藤委員長) 今、アンケートの内容にご意見等がなければ、後ほど事務局にお寄せいただきたい。

(事務局) アンケートのみ、ご意見だけ来週木曜日までにご意見をいただければありがたい。

(齋藤委員長) そのようにしたいが、よろしいか？ (異議なし)

#### **(5) 各委員から一言**

(齋藤委員長) 今回は初回であり、すべてについて十分理解が深まり、意見が出尽くしたわけではない。次回以降に検討材料を出していくためにも、委員のみなさんからご意見をいただきました

い。

(菅原副委員長) こういう方法もあったと勉強させられた。資料4の人口構成図。本当に若い人がいなくなっていると実感させられた。軽米町は人口減が著しくなっている。増田レポートの消滅可能性都市に軽米町も入っている。あのレポートを見て感じたのは、集中と選択。地方に拠点都市を設けて、そこに集中する。軽米町は選択の中にも入らない。私たちは見捨てられたような感じを受けた。それを何とか阻止するために、軽米町でこのような計画を立てられるのは喜ばしいこと。人口減を避けるのは難しいが、それぞれの立場から考えていく良い機会だ。

(千葉副委員長) 2点お話ししたい。1点は、具体的なターゲットや具体的に行きましょうというのはその通り。どの市町村もずっとやってきたこと。新しいアイデアがそれほど必要なのか？それよりも、実効性の高いものでロードマップを作っていくことが大事。もう一点は、人口ビジョンと総合戦略の関係について、人口ビジョンで減少を何年後にこれくらいまでに抑える、そのための総合戦略で相対的なもの。総合戦略の内容の程度によって、ビジョンも変わってくる。そのバランスを取られたら良い。

(委員) 非常に難しい問題。20歳代前後の若者の流出を止めるには、働くところを確保しなければ生活できない。事務局の説明にあったとおり、企業の誘致も難しいのなら、農林業が中心になると思うが、後継者を確保できていないのが現状。助成制度を利用しながら、後継者を確保していくのが必要。

(委員) 生活をしていく上で、衣食住を確保していくのは不可欠。我々の協会の住宅関連からすれば、空き家をリフォーム、イノベーションして、住居環境を快適にしていくのが一つの方法だし、雇用の分でも貢献となる。高齢化して若い人たちがいないのも克服していかなばならない。

(委員) 県で作った目標にも目標値を定めている。町は町でこの程度と定めてやっていくのは難しいのではないか。社会減ということでも、子どもも高等教育を受けるなら、地域外へ出て行かざるを得ない。町だけでなく、周辺地域、このあたりなら八戸市のような、近くの大きな地域をうまく活用していく視点も戦略として入れていくべきではないか。社会減については、4の社会減の推移で、2010年に均衡している時期がある。こういう時期に何があったのか、分析してみると参考になるのではないか。有効求人倍率が高くなると出ていかない、という報告が県で出ている。そういうのを調べてみるのも良い。選択と集中という話もあるが、県の人口問題報告では、それとは逆に、一人ひとりに合った方向性というのを出しているので、軽米町ではそのようなやり方が良いかもしれない。

(委員) こういうのがいい、という発想はあまり持ち合わせてはいない。どこの市町村でも考えつかなかった方法を、限られた期間で考え出すのは難しいので、人口減少対策がうまく行っている地域の例を参考にするのが良いのではないか。県と軽米町で、人口のピークに25年のずれが出ている。そのメカニズムの似ている地域の成功例をベンチマークしていくのが大事なのではないか。上手く行っているところから知恵をいただいて真似ていくのが良い。

(委員) 金融機関も積極的に戦略の作成に携わるようにということで、研修も受けている。非常に難しい問題。これまで実現できなかったところに、独自性を持って戦略を作るのは難しい。

人の流れ、雇用の関係については、金融機関として協力できる部分なので、次回以降、意見を出していきたい。近隣にも同じ悩みを抱えている市町村があるので、連携していく必要があるのではないか。

(委員) 決して明るい未来ではなく、どーんと暗くなる数字が並んでいた。副委員長から意見として出された、実効性のある目標を、ぜひ策定していただきたい。

(委員) 3月まで伊保内高校に勤めていて、その前は軽米高校にいた。高校再編問題に興味を持ち、積極に取り組みたいと思っている。軽米高校の存続のために、活動を盛り上げていきたい。若者を移住させることが第一だと思う。そのためには、高校を存続させることと、若い夫婦向けの若者住宅を整備して、安い価格で貸し出すまたは空き家をあっせんしていく取り組みもして、近隣へ通勤できるようにして、若い夫婦を定住させることも考えていきたい。

(委員) 今日の内容を聞かせてもらって、私の思いと町総務課の皆さんの思いが合致していた。軽米の安全・安心と自給自足を求め、Uターンしてきた。都会には希望者がたくさんいるので、マッチングをしていくことが大事。自分の場合は、出身地だし仲間も弟もいるので、安心して戻って来ることが出来た。そのような環境を作っていくことが大事。仕事があるかどうかは大きな問題。在宅でも仕事ができるようなやり方を見せていくことが必要。都会にあこがれて移っていく人が多いのも事実だが、八戸に通うなら軽米に住んだっていい。ぜひ具体的に実現していきたい。

(委員) 消滅可能性都市の報告を見てショックを受けたのが、自分が住みたいと感じたところが人口減が大きい地域だった。計画のターゲットが大事というご意見を聞いて、軽米に移ってきたい人をどう増やすかに絞るべきと思った。〇〇委員のご意見の通り、全国各地の成功例の良いところ取りで進めていったらいいのではないかな。クローズアップ現代で最近やっていた、島根県の海士町が取り上げられていたが、そのような例を参考に、ちょっとしたことで魅力を発信できるのではないかな。漫画「ハイキュー！」で、軽米町を訪れる若者が増え、大阪や静岡からも人が来ている。ノートを置いておいたら「軽米大好き！また来ます」という意見が多数寄せられている。潜在的な魅力を出していけるような方策を持って行ければと思う。気になるのは、若い世代の自殺。軽米ではどうなのか？もっと元気が欲しいところ。

(委員) 子どもの数が少なくなっているとのことで、どのくらい少なくなっているのかが気になる。軽米町がだんだんなくなっていくというのは聞いたが、実際に数字を見せられると本当なんだと実感する。子どもたちをどう増やしていくのか、若い人たちをどう増やしていくのか、移住者をどう受け入れていくのか、今後の会議を通じて考えていきたい。

(委員) 子どもが少ない、結婚しないといろいろあるが、若い人たちが都会に行って、都会が良くて住んでいるとも思えない。仕事がないから生活ができないので、収入のあてがあれば戻ってくる。女性も、男性に生活力がないと結婚できないし、結婚しても生活力がないと子どもがたくさん産めないというのもあって、若いお母さんたちは子どもをたくさん産めないのだろう。八戸にでも仕事があれば、軽米町に戻ってきて住むのではないかな？一番は生活の面はだと思ふ。

(委員) PTA 会長をやらせていただいているが、その前は商工会の青年部長を4年間やらせていただいた。花火や軽トラ市、街コンをやったり、さまざまなイベントをさせていただいた。イ

イベントに関しては、たくさんの協力を得て、その時は盛り上がったが、終わった後のフォローができなかった。これからは自分も含めて、若い世代が考えていかなければならない。小学校は3校、中学校は1校ある中で、中学校の生徒数は全校で208名。昨年から20名減少している。数年後には、150人くらいまで一気に減ってしまう。人口も1万人を割り、いずれは危機的な状況になる。これから考えていきたい。

(委員) 農業経営者の団体に関わっているが、10年くらい前はPTAも盛んにやっていた。その中で、いずれ人口減少がやってくることも議論した。イベントは長続きしないというのは以前からあった。軽米町にしかないものは何かを考え続けてきた。自分たちができるものやっ  
ていかないと、他所から持ってくるような感じとなって定着しない。子どもの減少、男女関係のイベントもやらせてもらったが、個性や個人があって、まとまるというのがなかなかうまくいかない。子どもの数もそう。人材育成という部分について、軽米町の考え方がどこにあるのかを見極めて、それに向かってどうしていくのかを見えるようにしないと進まない。声をかけたり、かけられたりする関係ができるといい。どこがいいかは、軽米にいると気づかないものもある。いろんな真似もいいが、長続きしないというのを経験的に感じている。軽米はこれだ、というのをみんなで考えて、戦略に乗せて、みんなでやろうという形にしていきたい。統一感を持たせてほしい。

(委員) いろんな意見を聞かせていただいて、感謝している。自分は軽米出身ではないので、とても参考になった。「ハイキュー！」は聖地巡礼と称して訪れる若者も多いと聞くし、魅力あるところも多いと思う。私はマスコミの立場と、盛岡で2つの青年部、それに雫石の軽トラ市の広報も担当しているので、その2つの立場からお話ししたい。最初にマスコミの立場から、折角いい場所があっても、それをどう発信して、どう伝えていくかがないと、それをどういった戦略で進めていくかが大事。それを町外・県外含めてやっていくこと。私は48年生まれの42歳で、第二次ベビーブーム世代。30歳はじめに、故郷に帰りたくなる時期というのがある。私も東京に6年いたが、盛岡へ帰ってきた。ICTの会議にもいくつか出ているが、インターネットがあれば、どこでも仕事ができる。技術がある人はどこでも仕事ができるので、実家に関係ない場所に住むケースもある。徳島の町に移住した人もいる。パソコンの仕事をしていても、自然や行事がリフレッシュになる。そのような、どこにいてもできるものに光を当てていくのもいい。もう一つ、商店街の青年部の立場からすると、大家さんが貸してくれないというのもよく聞く話。商店街にこういう店が欲しいというのを探してこちらから呼んでくる、というのも今動きつつあること。そういったものも必要なのではないかな。

(齋藤委員長) 一通り意見をいただいた上で、ぜひこれは付け加えたいという人はいるか？これをやればすごくいいぞ、というのはなかなか出ないかと思うが、いろんな視点から意見を出してもらうのは事務局でまとめていただいて、次の総合戦略に活かしていただきたい。  
以上で協議事項は終了し、事務局にマイクをお返すする。

## ○閉会

(事務局) アンケートについての意見は来週半ばまでに、それ以外の部分は次回委員会までに出し

ていただければ、反映させていきたい。

長時間ありがとうございました。以上で閉会いたします。